

**1**

解答例のページへ

次の各問いに答えよ。

(1)  $i$  は虚数単位とする。複素数  $z$  が、絶対値が 2 である複素数全体を動くとき、 $\left|z - \frac{i}{z}\right|$  の最大値と最小値を求めよ。

(2) 次の定積分の値を求めよ。

(i) 
$$\int_0^{\sqrt{3}} \frac{x\sqrt{x^2+1}+2x^3+1}{x^2+1} dx$$

(ii) 
$$\int_0^{\frac{\pi}{2}} \sqrt{\frac{1-\cos x}{1+\cos x}} dx$$

**2**[解答例のページへ](#)

正の整数  $x, y, z$  を用いて,  $N = 9z^2 = x^6 + y^4$  と表される正の整数  $N$  の最小値を求めよ。

3

解答例のページへ

$e$  は自然対数の底とする。  $x > \frac{1}{\sqrt{e}}$  において定義された次の関数  $f(x)$ ,  $g(x)$  を考える。

$$f(x) = x^2 \log x, \quad g(x) = x^2 \log x - \frac{1}{1 + 2 \log x}$$

実数  $t$  は  $t > \frac{1}{\sqrt{e}}$  を満たすとする。曲線  $y = f(x)$  上の点  $(t, f(t))$  における接線に垂直で、点  $(t, g(t))$  を通る直線を  $l_t$  とする。直線  $l_t$  が  $x$  軸と交わる点の  $x$  座標を  $p(t)$  とする。  $t$  が  $\frac{1}{\sqrt{e}} < t \leq e$  の範囲を動くとき、  $p(t)$  のとりうる値の範囲を求めよ。

4

解答例のページへ

座標空間の4点  $O, A, B, C$  は同一平面上にないとする。 $s, t, u$  は0でない実数とする。直線  $OA$  上の点  $L$ , 直線  $OB$  上の点  $M$ , 直線  $OC$  上の点  $N$  を,  $\overrightarrow{OL} = s\overrightarrow{OA}$ ,  $\overrightarrow{OM} = t\overrightarrow{OB}$ ,  $\overrightarrow{ON} = u\overrightarrow{OC}$  が成り立つようにとる。

- (1)  $s, t, u$  が  $\frac{1}{s} + \frac{2}{t} + \frac{3}{u} = 4$  を満たす範囲であらゆる値をとるとき, 3点  $L, M, N$  の定める平面  $LMN$  は,  $s, t, u$  の値に無関係な一定の点  $P$  を通ることを示せ。さらに, そのような点  $P$  はただ1つに定まることを示せ。
- (2) 四面体  $OABC$  の体積を  $V$  とする。(1)における点  $P$  について, 四面体  $PABC$  の体積を  $V$  を用いて表せ。

5

解答例のページへ

$\theta$  は実数とする。xyz 空間の 2 点  $A\left(0, 0, \frac{\sqrt{2}}{4}\right)$ ,  $P\left(\cos\theta, \sin\theta, \frac{1}{2}\cos\theta\right)$  を通る直線 AP が xy 平面と交わる時、その交点を Q とする。 $\theta$  が  $-\frac{\pi}{4} < \theta < \frac{\pi}{4}$  の範囲を動くときの点 Q の軌跡を求め、その軌跡を xy 平面上に図示せよ。

6

解答例のページへ

$n$  は 2 以上の整数とする。1 枚の硬貨を続けて  $n$  回投げる。このとき、 $k$  回目 ( $1 \leq k \leq n$ ) に表が出たら  $X_k = 1$ 、裏が出たら  $X_k = 0$  として、 $X_1, X_2, \dots, X_n$  を定める。 $Y_n = \sum_{k=2}^n X_{k-1}X_k$  とするとき、 $Y_n$  が奇数である確率  $p_n$  を求めよ。

1

問題のページへ

(1)  $z$  が  $|z|=2$  である複素数全体を動くとき、 $z=2(\cos\theta+i\sin\theta)$  と表すと、

$$\begin{aligned} z - \frac{i}{z} &= 2(\cos\theta + i\sin\theta) - \frac{1}{2} \left\{ \cos\left(\frac{\pi}{2} - \theta\right) + i\sin\left(\frac{\pi}{2} - \theta\right) \right\} \\ &= 2(\cos\theta + i\sin\theta) - \frac{1}{2}(\sin\theta + i\cos\theta) \\ &= \left(2\cos\theta - \frac{1}{2}\sin\theta\right) + i\left(2\sin\theta - \frac{1}{2}\cos\theta\right) \end{aligned}$$

すると、 $\left|z - \frac{i}{z}\right|^2 = \left(2\cos\theta - \frac{1}{2}\sin\theta\right)^2 + \left(2\sin\theta - \frac{1}{2}\cos\theta\right)^2$  から、

$$\left|z - \frac{i}{z}\right|^2 = 4 + \frac{1}{4} - 2(\cos\theta\sin\theta + \sin\theta\cos\theta) = \frac{17}{4} - 2\sin 2\theta$$

$\theta$  は任意の実数なので  $-1 \leq \sin 2\theta \leq 1$  から、 $\left|z - \frac{i}{z}\right|$  の最大値は  $\sqrt{\frac{17}{4} + 2} = \frac{5}{2}$ 、最小値は  $\sqrt{\frac{17}{4} - 2} = \frac{3}{2}$  である。

(2) (i)  $2x^3 + 1 = (x^2 + 1) \cdot 2x - (2x - 1)$  から、

$$\frac{x\sqrt{x^2+1} + 2x^3 + 1}{x^2 + 1} = \frac{x}{\sqrt{x^2+1}} + 2x - \frac{2x-1}{x^2+1} = \frac{x}{\sqrt{x^2+1}} + 2x - \frac{2x}{x^2+1} + \frac{1}{x^2+1}$$

ここで、 $I = \int_0^{\sqrt{3}} \frac{x\sqrt{x^2+1} + 2x^3 + 1}{x^2 + 1} dx$  とし、 $x = \tan\theta$  ( $-\frac{\pi}{2} < \theta < \frac{\pi}{2}$ ) とおくと、

$$\begin{aligned} I &= \int_0^{\sqrt{3}} \left( \frac{x}{\sqrt{x^2+1}} + 2x - \frac{2x}{x^2+1} \right) dx + \int_0^{\sqrt{3}} \frac{1}{x^2+1} dx \\ &= \left[ \sqrt{x^2+1} + x^2 - \log(x^2+1) \right]_0^{\sqrt{3}} + \int_0^{\frac{\pi}{3}} \frac{1}{\tan^2\theta+1} \cdot \frac{1}{\cos^2\theta} d\theta \\ &= (2-1) + 3 - \log 4 + \int_0^{\frac{\pi}{3}} d\theta = 4 - 2\log 2 + \frac{\pi}{3} \end{aligned}$$

(ii)  $\sqrt{\frac{1-\cos x}{1+\cos x}} = \sqrt{\frac{2\sin^2\frac{x}{2}}{2\cos^2\frac{x}{2}}} = \frac{|\sin\frac{x}{2}|}{|\cos\frac{x}{2}|}$  から、 $J = \int_0^{\frac{\pi}{2}} \sqrt{\frac{1-\cos x}{1+\cos x}} dx$  とおくと、

$$\begin{aligned} J &= \int_0^{\frac{\pi}{2}} \frac{|\sin\frac{x}{2}|}{|\cos\frac{x}{2}|} dx = \int_0^{\frac{\pi}{2}} \frac{\sin\frac{x}{2}}{\cos\frac{x}{2}} dx = \left[ -2\log\left|\cos\frac{x}{2}\right| \right]_0^{\frac{\pi}{2}} \\ &= -2\left(\log\frac{1}{\sqrt{2}} - \log 1\right) = -2\log 2^{-\frac{1}{2}} = \log 2 \end{aligned}$$

### [コメント]

(1)は複素数平面についての基本題です。(2)は定積分の計算題です。(ii)は半角の定理を利用しましたが、他の方法も考えられます。

2

問題のページへ

正の整数  $x, y, z$  を対して,  $N = 9z^2 = x^6 + y^4 \dots\dots\dots ①$

まず,  $x$  と  $x^6$ ,  $y$  と  $y^4$  を 3 で割った余りについてまとめると, 右表のようになる。これより,  $x^6$ ,  $y^4$  を 3 で割った余りは 0 または 1 である。

$x$	0	1	2
$x^6$	0	1	1

$y$	0	1	2
$y^4$	0	1	1

次に,  $x^6$ ,  $y^4$  を 3 で割った余りと,  $x^6 + y^4$  を 3 で割った余りの関係は右表のようになる。

$y^4 \backslash x^6$	0	1
0	0	1
1	1	2

すると, ①から  $9z^2$  を 3 で割った余りは 0 から,  $x^6 + y^4$  を 3 で割った余りも 0, すなわち  $x^6$ ,  $y^4$  を 3 で割った余りはともに 0 である。

これより,  $k, l$  を正の整数として,  $x = 3k$ ,  $y = 3l$  とおくことができ, ①に代入し,

$$9z^2 = 3^6 k^6 + 3^4 l^4, \quad z^2 = 3^4 k^6 + 3^2 l^4 = 3^2(3^2 k^6 + l^4) \dots\dots\dots ②$$

すると,  $z^2$  は  $3^2$  の倍数, すなわち  $z$  は 3 の倍数となり,  $m$  を正の整数として  $z = 3m$  とおくと, ②から,

$$3^2 m^2 = 3^2(3^2 k^6 + l^4), \quad m^2 = 9k^6 + l^4 \dots\dots\dots ③$$

③を満たす正の整数  $m$  が最小になるのは,

- ・  $k=1, l=1$  のとき ③から,  $m^2 = 9+1=10$  となり, 整数  $m$  は存在しない。
- ・  $k=1, l=2$  のとき ③から,  $m^2 = 9+16=25$  となり,  $m=5$  である。

なお,  $k \geq 2, l=1$  のときは, ③から  $m^2 \geq 576+1=577$  となり,  $k=1, l=2$  のとき  $m$  は最小値をとる。

したがって, ①を満たす正の整数  $N$  は  $N = 9(3m)^2 = 81m^2$  から, その最小値は,  $81 \cdot 5^2 = 2025$  である。

### [コメント]

誘導のない整数問題です。ここでは, 与えられた式の  $z^2$  の係数 9 に着目し, 3 で割った余りをもとに考えています。



3

問題のページへ

$x > \frac{1}{\sqrt{e}}$  における  $f(x) = x^2 \log x$ ,  $g(x) = x^2 \log x - \frac{1}{1+2\log x}$  に対して,

$$f'(x) = 2x \log x + x^2 \cdot \frac{1}{x} = 2x \log x + x = x(2\log x + 1) > 0$$

曲線  $y = f(x)$  上の点  $(t, f(t))$  における法線の傾きは,  $-\frac{1}{f'(t)} = -\frac{1}{t(2\log t + 1)}$  であり, この法線と平行で点  $(t, g(t))$  を通る直線  $l_t$  の方程式は,

$$y - \left( t^2 \log t - \frac{1}{1+2\log t} \right) = -\frac{1}{t(2\log t + 1)}(x - t)$$

直線  $l_t$  と  $x$  軸の交点の座標が  $(p(t), 0)$  なので,

$$-\left( t^2 \log t - \frac{1}{1+2\log t} \right) = -\frac{1}{t(2\log t + 1)}(p(t) - t)$$

$$p(t) - t = t(2\log t + 1) \left( t^2 \log t - \frac{1}{1+2\log t} \right) = t^3(\log t)(2\log t + 1) - t$$

これより,  $p(t) = t^3(\log t)(2\log t + 1)$  となり,

$$\begin{aligned} p'(t) &= 3t^2(\log t)(2\log t + 1) + t^3 \cdot \frac{1}{t}(2\log t + 1) + t^3(\log t) \cdot \frac{2}{t} \\ &= 3t^2(\log t)(2\log t + 1) + t^2(2\log t + 1) + 2t^2 \log t \\ &= t^2 \{ 6(\log t)^2 + 3\log t + 2\log t + 1 + 2\log t \} = t^2 \{ 6(\log t)^2 + 7\log t + 1 \} \\ &= t^2(6\log t + 1)(\log t + 1) \end{aligned}$$

これより,  $\frac{1}{\sqrt{e}} < t \leq e$  すなわち  $e^{-\frac{1}{2}} < t \leq e$  における  $p(t)$  の増減は右表のようになり,

$t$	$e^{-\frac{1}{2}}$	...	$e^{-\frac{1}{6}}$	...	$e$
$p'(t)$		-	0	+	
$p(t)$	0	↘		↗	

$$p(e) = e^3 \cdot 1 \cdot 3 = 3e^3$$

$$p\left(e^{-\frac{1}{6}}\right) = e^{-\frac{1}{2}} \cdot \left(-\frac{1}{6}\right) \cdot \frac{2}{3} = -\frac{1}{9}e^{-\frac{1}{2}}$$

したがって,  $p(t)$  のとりうる値の範囲は,  $-\frac{1}{9}e^{-\frac{1}{2}} \leq p(t) \leq 3e^3$  である。

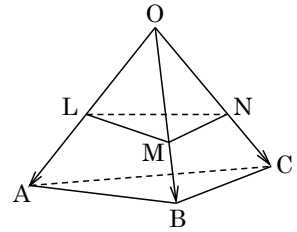
### [コメント]

計算量が多めの微分法の問題です。内容は基本的ですが。

4

問題のページへ

- (1) 4点  $O, A, B, C$  が同一平面上にないとき、 $\overrightarrow{OL} = s\overrightarrow{OA}$ 、  
 $\overrightarrow{OM} = t\overrightarrow{OB}$ 、 $\overrightarrow{ON} = u\overrightarrow{OC}$  として、 $\frac{1}{s} + \frac{2}{t} + \frac{3}{u} = 4 \cdots \cdots \textcircled{1}$  を



満たすように3点  $L, M, N$  をとる。

$\textcircled{1}$  を変形して、 $\frac{1}{4s} + \frac{1}{2t} + \frac{3}{4u} = 1$  となることに着目し、

点  $P$  を  $\overrightarrow{OP} = \frac{1}{4s}\overrightarrow{OL} + \frac{1}{2t}\overrightarrow{OM} + \frac{3}{4u}\overrightarrow{ON}$  とおく。

すると、点  $P$  は平面  $LMN$  上にあり、しかも、

$$\overrightarrow{OP} = \frac{1}{4s} \cdot s\overrightarrow{OA} + \frac{1}{2t} \cdot t\overrightarrow{OB} + \frac{3}{4u} \cdot u\overrightarrow{OC} = \frac{1}{4}\overrightarrow{OA} + \frac{1}{2}\overrightarrow{OB} + \frac{3}{4}\overrightarrow{OC} \cdots \cdots \textcircled{2}$$

これより点  $P$  は定点であり、平面  $LMN$  は  $s, t, u$  の値に無関係な点  $P$  を通る。

次に、 $\textcircled{1}$  を満たす  $s, t, u$  について、

- $(s, t, u) = (1, 1, 3)$  のとき  $\overrightarrow{OC'} = 3\overrightarrow{OC}$  とおく。

このとき、 $\overrightarrow{OP} = \frac{1}{4}\overrightarrow{OA} + \frac{1}{2}\overrightarrow{OB} + \frac{1}{4}\overrightarrow{OC'}$  から、点  $P$  は平面  $ABC'$  上にある。

- $(s, t, u) = (-1, 1, 1)$  のとき  $\overrightarrow{OA'} = -\overrightarrow{OA}$  とおく。

このとき、 $\overrightarrow{OP} = -\frac{1}{4}\overrightarrow{OA'} + \frac{1}{2}\overrightarrow{OB} + \frac{3}{4}\overrightarrow{OC}$  から、点  $P$  は平面  $A'BC$  上にある。

- $(s, t, u) = (-1, \frac{1}{2}, 3)$  のとき  $\overrightarrow{OB'} = \frac{1}{2}\overrightarrow{OB}$  とおく。

このとき、 $\overrightarrow{OP} = -\frac{1}{4}\overrightarrow{OA'} + \overrightarrow{OB'} + \frac{1}{4}\overrightarrow{OC'}$  から、点  $P$  は平面  $A'B'C'$  上にある。

すると、直線  $PB$  は平面  $ABC'$  と平面  $A'BC$  の交線、直線  $PA'$  は平面  $A'BC$  と平面  $A'B'C'$  の交線、直線  $PC'$  は平面  $ABC'$  と平面  $A'B'C'$  の交線である。

そして、3点  $A', B, C'$  は同一直線上にないため、3交線が一致することはない。  
 これより、3平面の共有点である点  $P$  はただ1つ存在する。

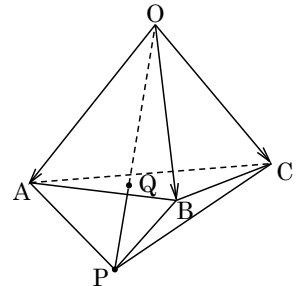
- (2) 直線  $OP$  と平面  $ABC$  の交点を  $Q$  とおき、 $\overrightarrow{OQ} = k\overrightarrow{OP}$  とすると、

$$\overrightarrow{OQ} = \frac{k}{4}\overrightarrow{OA} + \frac{k}{2}\overrightarrow{OB} + \frac{3k}{4}\overrightarrow{OC}$$

すると、 $\frac{k}{4} + \frac{k}{2} + \frac{3k}{4} = 1$  から  $\frac{3k}{2} = 1$  となり、 $k = \frac{2}{3}$

これより、 $\overrightarrow{OQ} = \frac{2}{3}\overrightarrow{OP}$  なので、 $OQ : PQ = 2 : 1$  である。

したがって、四面体  $OABC$  の体積を  $V$  とするとき、四面体  $PABC$  の体積は  $\frac{1}{2}V$  となる。



[コメント]

空間ベクトルの問題です。(1)の後半は、感覚的には明らかなのですが……。

5

問題のページへ

点  $A(0, 0, \frac{\sqrt{2}}{4})$ ,  $P(\cos\theta, \sin\theta, \frac{1}{2}\cos\theta)$  に対して、直線  $AP$  は、 $t$  を実数として、

$$(x, y, z) = (0, 0, \frac{\sqrt{2}}{4}) + t(\cos\theta, \sin\theta, \frac{1}{2}\cos\theta - \frac{\sqrt{2}}{4}) \dots\dots\dots ①$$

直線  $AP$  と  $xy$  平面の交点を  $Q(x, y, 0)$  とすると、

$$\frac{\sqrt{2}}{4} + (\frac{1}{2}\cos\theta - \frac{\sqrt{2}}{4})t = 0, \quad (2\cos\theta - \sqrt{2})t = -\sqrt{2}$$

$-\frac{\pi}{4} < \theta < \frac{\pi}{4}$  のとき、 $2\cos\theta - \sqrt{2} > 0$  なので、

$$t = -\frac{\sqrt{2}}{2\cos\theta - \sqrt{2}} = -\frac{1}{\sqrt{2}\cos\theta - 1}$$

①に代入すると、

$$x = -\frac{\cos\theta}{\sqrt{2}\cos\theta - 1} \dots\dots\dots ②, \quad y = -\frac{\sin\theta}{\sqrt{2}\cos\theta - 1} \dots\dots\dots ③$$

②より、 $x(\sqrt{2}\cos\theta - 1) = -\cos\theta$  となり、 $(\sqrt{2}x + 1)\cos\theta = x$  から  $\cos\theta = \frac{x}{\sqrt{2}x + 1}$

②③から、 $\frac{y}{x} = \frac{\sin\theta}{\cos\theta}$  なので、 $\sin\theta = \frac{y}{x}\cos\theta = \frac{y}{x} \cdot \frac{x}{\sqrt{2}x + 1} = \frac{y}{\sqrt{2}x + 1}$  となり、

$$\left(\frac{x}{\sqrt{2}x + 1}\right)^2 + \left(\frac{y}{\sqrt{2}x + 1}\right)^2 = 1, \quad x^2 + y^2 = 2x^2 + 2\sqrt{2}x + 1$$

まとめると、 $x^2 + 2\sqrt{2}x - y^2 = -1$  から、 $(x + \sqrt{2})^2 - y^2 = 1 \dots\dots\dots ④$

さて、 $-\frac{\pi}{4} < \theta < \frac{\pi}{4}$  から  $\frac{1}{\sqrt{2}} < \cos\theta \leq 1$  であり、 $\frac{1}{\sqrt{2}} < \frac{x}{\sqrt{2}x + 1} \leq 1$  より、

・  $\sqrt{2}x + 1 > 0$  ( $x > -\frac{1}{\sqrt{2}}$ ) のとき  $\sqrt{2}x + 1 < \sqrt{2}x \leq 2x + \sqrt{2}$  から成立しない。

・  $\sqrt{2}x + 1 < 0$  ( $x < -\frac{1}{\sqrt{2}}$ ) のとき  $\sqrt{2}x + 1 > \sqrt{2}x \geq 2x + \sqrt{2}$  から、

$$(2 - \sqrt{2})x \leq -\sqrt{2}$$

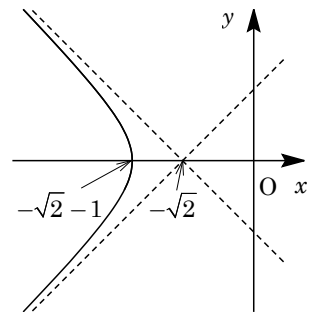
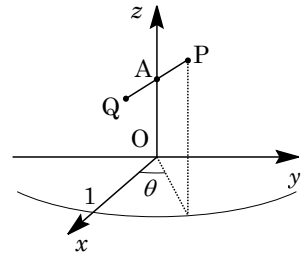
$$x \leq -\frac{\sqrt{2}}{2 - \sqrt{2}} = -\frac{2\sqrt{2} + 2}{2} = -\sqrt{2} - 1$$

$x < -\frac{1}{\sqrt{2}}$  と合わせて、 $x \leq -\sqrt{2} - 1 \dots\dots\dots ⑤$  である。

したがって、点  $Q$  の軌跡は、④⑤から、

$$\text{双曲線} : (x + \sqrt{2})^2 - y^2 = 1 \quad (x \leq -\sqrt{2} - 1)$$

図示すると、右図の実線となる。



[コメント]

空間図形と2次曲線の融合問題です。軌跡の限界のチェックがやや面倒です。

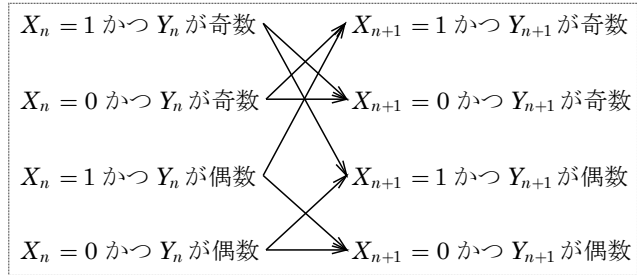
6

問題のページへ

1枚の硬貨を続けて  $n$  回 ( $n \geq 2$ ) 投げ、 $k$  回目 ( $1 \leq k \leq n$ ) に表が出たら  $X_k = 1$ 、裏が出たら  $X_k = 0$  とし、 $Y_n = \sum_{k=2}^n X_{k-1}X_k$  とする。

さて、「 $X_n = 1$  かつ  $Y_n$  が奇数」、「 $X_n = 0$  かつ  $Y_n$  が奇数」、「 $X_n = 1$  かつ  $Y_n$  が偶数」、「 $X_n = 0$  かつ  $Y_n$  が偶数」という確率を、順に  $a_n, b_n, c_n, d_n$  とおく。

このとき、状態の推移図は右のようになり、



$$a_{n+1} = \frac{1}{2}b_n + \frac{1}{2}c_n \dots\dots ①$$

$$b_{n+1} = \frac{1}{2}a_n + \frac{1}{2}b_n \dots\dots ②$$

$$c_{n+1} = \frac{1}{2}a_n + \frac{1}{2}d_n \dots\dots ③$$

$$d_{n+1} = \frac{1}{2}c_n + \frac{1}{2}d_n \dots\dots ④$$

なお、 $Y_2 = X_1X_2$  から、 $a_2 = \frac{1}{4}$ 、 $b_2 = 0$ 、 $c_2 = \frac{1}{4}$ 、 $d_2 = \frac{1}{2}$  である。

ここで、 $Y_n$  が奇数である確率を  $p_n$  とすると、 $p_n = a_n + b_n$  であり、①②より、

$$a_{n+1} + b_{n+1} = \frac{1}{2}a_n + b_n + \frac{1}{2}c_n = b_n + \frac{1}{2}(a_n + c_n) \dots\dots ⑤$$

①③より、 $a_{n+1} + c_{n+1} = \frac{1}{2}a_n + \frac{1}{2}b_n + \frac{1}{2}c_n + \frac{1}{2}d_n = \frac{1}{2}(a_n + b_n + c_n + d_n)$

すると、 $a_n + b_n + c_n + d_n = 1$  から  $a_{n+1} + c_{n+1} = \frac{1}{2}$  となり、 $a_n + c_n = \frac{1}{2}$  ( $n \geq 3$ )

なお、 $a_2 + c_2 = \frac{1}{4} + \frac{1}{4} = \frac{1}{2}$  なので、 $n \geq 2$  で  $a_n + c_n = \frac{1}{2}$  となり、⑤に代入して、

$$a_{n+1} + b_{n+1} = b_n + \frac{1}{4}, p_{n+1} = b_n + \frac{1}{4} \dots\dots ⑥$$

また、②から  $b_{n+1} = \frac{1}{2}p_n$  となり、⑥に代入すると  $p_{n+2} = b_{n+1} + \frac{1}{4} = \frac{1}{2}p_n + \frac{1}{4}$  から、

$$p_{n+2} - \frac{1}{2} = \frac{1}{2}(p_n - \frac{1}{2}) \dots\dots ⑦$$

(i)  $n = 2k$  ( $k \geq 1$ ) のとき ⑦から、 $p_{2k+2} - \frac{1}{2} = \frac{1}{2}(p_{2k} - \frac{1}{2})$  となり、

$$p_{2k} - \frac{1}{2} = (p_2 - \frac{1}{2})\left(\frac{1}{2}\right)^{k-1} = \left(\frac{1}{4} + 0 - \frac{1}{2}\right)\left(\frac{1}{2}\right)^{k-1} = -\left(\frac{1}{2}\right)^{k+1}$$

すると、 $p_{2k} = \frac{1}{2} - \left(\frac{1}{2}\right)^{k+1}$  から、 $p_n = \frac{1}{2} - \left(\frac{1}{2}\right)^{\frac{n}{2}+1}$  となる。

(ii)  $n = 2k + 1$  ( $k \geq 1$ ) のとき ⑦から、 $p_{2k+3} - \frac{1}{2} = \frac{1}{2}(p_{2k+1} - \frac{1}{2})$  となり、

$$p_{2k+1} - \frac{1}{2} = (p_3 - \frac{1}{2})\left(\frac{1}{2}\right)^{k-1} = \left(0 + \frac{1}{4} - \frac{1}{2}\right)\left(\frac{1}{2}\right)^{k-1} = -\left(\frac{1}{2}\right)^{k+1}$$

すると、 $p_{2k+1} = \frac{1}{2} - \left(\frac{1}{2}\right)^{k+1}$  から、 $p_n = \frac{1}{2} - \left(\frac{1}{2}\right)^{\frac{n+1}{2}}$  となる。

(i)(ii)より、 $n$  が偶数のとき  $p_n = \frac{1}{2} - \left(\frac{1}{2}\right)^{\frac{n}{2}+1}$ 、 $n$  が奇数のとき  $p_n = \frac{1}{2} - \left(\frac{1}{2}\right)^{\frac{n+1}{2}}$  である。

### [コメント]

確率と漸化式の問題です。 $Y_n$  の偶奇だけでなく、 $X_n$  の値にも注意して状態を分類することが必要です。